

ちよつとしい話

～ 教 育 ～

鎌倉時代の名僧、法然上人は智者の振る舞いをしてはいけないと戒めています。法然上人の言われる智者とは何であるのか、少し考えてみたいと思います。それは、我々人間が身につけなくてはならない実践的教育にあると思われまふ。幸い教育に関しては明治時代に有名な「勅語」があります。その中に、「我が臣民克く忠に克く孝に億兆心を一にして世々厥の美を濟せるは此れ我が國體の精華にして教育の淵源亦實に此に存す」と説明されています。一般に、臣とは官の人を指し、民とはその他の人を指すも、我が国では全ての人間を同一線上にあるとしています。祖先以来億兆の臣民克く、忠に克く孝に世々渝わる（悪く変わる事）事無く忠孝の美風を濟せるは我が國體の精華にして教育の淵源なることを示したのです。淵源とは、源泉であり基礎になる事です。忠とは、中と心との2字が相重なる文字にして、誠意中心を盡くして師や長を恭敬奉仕し一意専心をもって仕える事を意味します。精華とは、精は専一、華は、花の咲き乱れる姿です。その美濟せるとは、祖先以来継承してきている道理であり、忠孝の美風善行を修めまっとうする事です。例えば、聖徳太子は父、用明天皇の病気にさいし、父の病床を離れる事無く昼夜眠らずして父に湯薬を勧め看病したそうです。また、法蔵上人は母の苦しみを救おうとして法華經八卷を写經され、母をお救いになりました。佛教においても、道德の中最も重んずべきは忠孝の二者也とあります。この事を守ることが出来ない者は地獄の苦しみを受けると思われています。我々は、諸処の振る舞いをしますが、しっかりした思慮分別を持たなくてはと思う今日この頃です。

善入院油掛地藏尊